

平成28年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490900402	事業の開始年月日	平成28年4月1日	
		指定年月日	平成28年4月1日	
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社			
事業所名	愛の家グループホーム横浜大倉山			
所在地	( 222-0037 )			
	神奈川県横浜市港北区大倉山7-36-8			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18	名
		ユニット数	2	ユニット
自己評価作成日	平成29年1月8日	評価結果 市町村受理日		

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

愛の家グループホーム横浜大倉山は横浜の中心地から少し離れ、閑静な住宅地の中で生活を送れる環境です。  
ホーム周辺には河川や緑道、太尾小学校、港北高校に囲まれている為、河川や緑を眺めながらの散歩や小学生や高校生と触れ合いながら認知症緩和ケアを行うことができるのも大きな利点です。校庭から聞こえてくる子供たちの声と共に生活できる、元気いっぱいホーム作りをしていきたいと思っています。認知症を患った方、ご家族にとっても安心して生活しやすいホーム運営を目指し、雰囲気作りを大切にしております。また、スタッフの9割が介護福祉士を取得しており介護の専門家が多くの在籍しているのも利点の一つです。  
個別ケアを中心に認知症緩和ケア(コグニサイズ)を取り入れ、入居者様たちの「第2に我が家」になればと考えています。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成29年2月24日	評価機関 評価決定日	平成29年4月7日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は昨年4月日の開設で、東急東横線「大倉山駅」または、横浜市営地下鉄「新羽駅」から徒歩14～16分の静かな住宅地にあります。事業所の周辺には保育園、小・中・高等学校があり、児童生徒の賑やかな声が聞こえてきます。河川や緑道、スーパーなどがあり、散歩や買い物に便利な場所です。

<優れている点>

開設1年目を迎えようとしている事業所は、管理者始め全職員が、適切な利用者サービスの提供と運営を軌道に乗せようと、チームワーク良く取り組んでいます。利用者は朝食後、居室に戻ることなくほとんど全員がリビングで思い思いに過ごしています。職員との会話、ソロバンをはじく、計算問題に取り組む、ぬり絵をする、ボールペン習字をする、新聞を読む、雑誌や小説を読むなど、好きな事に取り組んでおり、生き生きとしています。年間行事などの全体レクリエーションとは別に、本人の希望や意向に応じた対応を個別レクリエーションとし、その実現に取り組んでいます。海が好きで若い頃は湘南でボートを運転していた利用者と湘南の海に行き、当時の思い出を満喫してもらっています。本人の希望のみならず、家族からの提案も受け入れ、出来るだけ叶えていくことにしています。

<工夫点>

運営推進会議に多くの家族の参加を希望しており、会議の時期には、家族に送付するホーム便り「愛の家通信」で参加を呼び掛けています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	愛の家グループホーム横浜大倉山
ユニット名	1F さくら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	1 その人らしい快適で穏やかなシルバークライフを常にサポートします 2 心を込めた親切なサービスに努めその心を磨き続けます。 3 さまざまな機会を通じて地域の人々とのふれあいを大切にします。この3つの理念を継続的な運営に努めています。	法人理念を事務所に掲示し、朝の申し送り時に唱和しています。現在、管理者は地域密着型サービスの意義や役割を再考し、地域や利用者のニーズ、事業所の現状に合った独自の理念づくりを検討しています。	事業所独自の理念を作り、職員に周知し、利用者、家族、地域と共有し、利用者の支援に実践していくことが期待されます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	運営推進会議を通じて自治会長や民生委員の方々との交流を深めています。また、事業所で行うイベントに地域の方々をお招きし認知症への理解を深めて頂く取り組みを行っております。	事業所の開設後、すぐ自治会に加入しています。今後、地域行事へ積極的に参加し、交流を深めていくこととしています。保育園児の来訪が2ヶ月ごとにあり、歌やじゃんけん大会などで利用者と交流しています。傾聴やマジックのボランティアの来訪があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方で認知症介護に困っている方に対して相談体制を整えています。また、認知症高齢者支援の中でも、認知症相談受付と徘徊協力機関として、協力体制を整えています。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回の運営推進会議を開設時より欠かさず行い、ご家族様や地域の方々の意見を反映しサービスの向上に努めています。	運営推進会議を定期的に行っており、毎月家族に送付する「愛の家通信」で会議への参加を呼び掛けている。事業所の活動状況について報告や話し合いを行い、質疑応答、意見交換をして事業所の運営に生かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	横浜市港北区で行われる研修や会議に参加し担当の方々と情報交換を行っています。また、職員もケアプラザで行われる会議に参加しています。	介護認定更新の機会に担当課に出向き、連携を取っています。区で実施する研修会や会議に参加し、担当者との情報交換を行い、協力関係を築いています。災害時の一時避難場所としての受け入れについて、行政との協議を検討しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	マニュアルを掲示し拘束や施錠を防止しています。また、定期的に職員が研修を行い意識を高めています。	身体拘束・虐待について研修を行っています。身体拘束マニュアルを参照し、他施設での発生事例などを皆で検討しています。職員の意識向上を図り、適切な声掛けを行い、身体拘束防止に取り組んでいます。毎月「虐待・不適切ケア、身体拘束」に関するチェックを実施し、振り返っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的に研修を行い防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	今後、社内や外部研修等の機会を通じて学び、対象となる入居者様に対して活用できる様に支援します。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には概ね2時間～3時間の時間を掛け読み合わせを行い、ご理解を頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議時にご家族様よりご意見を頂き、日常的にも意見箱を設置しご意見を反映させています。	運営推進会議や家族の面会時に意見や要望を聞き、運営に反映させています。「医師の往診後に検査結果表や処方箋が出た場合は、家族にも通知してほしい」との要望に、毎月家族に送付する「愛の家通信」と一緒にお知らせを送付する対応をしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月必ず全体会議を開き意見を発言できる場を設けています。また、個人面談等を通じて、職員一人一人の意見や考えを伺い反映できる環境を整えています。	管理者やユニットリーダーは日常的に職員と話し合い、意見や要望、提案を受け入れ業務改善を行っています。3ヶ月ごとに職員面談を実施し、困っていること、精神的なことなどについても相談に乗っています。待遇面などの要望は本部に伝えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	例年、従業員に対して満足度アンケートを実施し、職場環境の改善に努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	地域で行われる研修や会議に参加しフィードバックする事と、年間研修計画を作成し毎月職員自ら学び研修を実施しています。また、経験年数に応じた研修を開催する事で職員のモチベーションを高め、ケアの質向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	ケアプラザで行われる会議等に参加し情報交換や交流を深めています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前のアセスメントでは、本人の要望とご家族様のご要望を聞きだし、理解し、当事業所での生活がイメージできるような助言と相談を実施する事で良好な関係作りに努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス前にはご家族様とも十分に話し合いを持ち安心してサービスが受けられるよう理解を深め、信頼を得られています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービス開始段階で必要としている支援をニーズから見極め、助言する事を実施しています。支援して行く中でも他のサービス利用の必要性なども発見し、助言しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	生活をする上で必要な家事や、楽しみなどをご入居者様と職員で共有し、良い雰囲気の上で関係を構築しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の意向を傾聴し、必要であれば随時、担当者会議を開催し、サービスの計画を立てている。本人を支えていく上で様々なヒントや助言を頂き反映できています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	年賀状や手紙などを継続して描いていただく事や、個別支援によりご自宅近くへのドライブで近所の方とお会いできる機会を増やしています。	同級生や近所の人の来訪があり、イベントと一緒に楽しむこともあります。手紙や年賀状のやり取りを行うために日々、文字書きのレクリエーションを取り入れています。湘南の海を楽しんできた人にはその場所へ案内し、当時の思い出を満喫してもらっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご入居者様個々の性格を把握し、場合によっては職員が間に入る事で、職員も含めて共に生活する仲間として、役割を持てるような雰囲気作りをしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	当事業所でのサービスを終了された後もお電話での連絡やご相談に対して随時ご対応させて頂いています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン更新時には必ずご本人様の意思や意向を尊重しプランに反映させ本人本位のケアプランとなっています。	アセスメントで得た情報を参考に利用者与会話し、本人の思いや意向の把握に努めています。外食や買い物希望で事業所では対応が出来ない場合は家族に繋げています。レクリエーションやアクティビティを行うときも無理強いせず本人の意向を尊重しています	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族を交えてのアセスメントを実施し、生活歴や生活環境を把握しております。趣味や馴染んだ習慣なども継続して実施して頂いております。また、大切にしていた行事なども個別支援として対応方法を検討させて頂いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	今までのその方の個々の過ごし方を尊重しています。心身の状態も常に観察し対応し、日々の申し送りの際に心身の状態を引き継ぎしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月のユニット会議時に職員の考えている事や現在の課題を明確にし話し合いを行っています。 また、ご家族様からのアドバイスも踏まえて職員全員で共有し達成可能な無理の無いケアプランを作成しています。	毎月開催するユニット会議で利用者の状況を話し合い、意見交換をしています。ケアプランの更新時にはモニタリング、アセスメント、ケアカンファレンスを実施し、利用者、家族の意向を反映し作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランを介護記録と一緒にファイルし、プランを常に意識しながら記録する事ができています。 情報共有も適宜適切に行えプランの見直しに活かされています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご入居者様やご家族様の新しいニーズに対し、臨機応変なサービスを実施しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	保育園の園児さんと定期的に交流を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご入居時には、今までのかかりつけ医、当事業所のかかりつけ医を選択する事が出来、どちらの場合においても随時連携し、適切な医療が受けられる体制となっています。 また、ご家族様が不在時には職員による通院対応も行っています。	基本は訪問医の受診としていますが、専門的な治療について家族の付き添いでかかりつけ医に通院している人もいます。家族が付き添いできない場合、職員が代わって対応することもあります。訪問看護師が利用者の体調管理について医師へ報告をしています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に1度の訪問看護師による往診により情報を共有し連携強化を図っています。また、その都度、訪問医と連携しながら適宜適切な助言を頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は必ずソーシャルワーカー等と密に連携を図り、適切な情報共有が出来るような体制を整えています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に「重度化した場合の対応にかかる指針」の説明を行い同意を得ています。	看取りについてのマニュアルを作成し、研修も行っています。先々について家族から看取りの要望もあり、入所時に看取りの同意書を交わしています。現段階では、看取りに結びついたことはありませんが、支援できる体制です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	年2回の消防防災訓練を実施し、消防所長の指導の下、応急処置訓練や普通救命の訓練を行っています。また、各ユニットに緊急時の対応マニュアルを掲示しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の消防防災訓練を実施し、(内1回は夜間想定訓練)消防所長の指導の下、応急処置訓練や普通救命の訓練を行っています。また、各ユニットに緊急時の対応マニュアルを掲示しています。	マニュアルの整備に加え、非常用放送設備の場所に災害時の役割分担表があります。9月に災害時の研修を行っています。備蓄は3日分の食料と水、おむつなどがあり、炊き出し用にカセットコンロや発電機も用意しています。今年度消防訓練は2回実施しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご入居者様お一人お一人の尊厳を大切にし意思を尊重した声掛けを心懸けています。 また、接遇や対人コミュニケーションの研修を行っています。	一動作、一行為に注意を払っています。特に、扉の開閉については不穏になることがあるので注意しています。 人格尊重の観点からできるだけ自己決定を優先するような声掛けを心がけ、希望があれば対応する工夫をカンファレンスなどで検討しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご入居者様お一人お一人の性格や人生背景に照らし合わせ思いや希望を叶えられるような声掛けや自己決定できるようなアプローチを心懸けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	可能な限り希望に沿ってその日の過ごし方を支援し、その方のペースを大切に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	お一人お一人の生活習慣に合わせた身だしなみをして頂けるよう支援し、理美容に関しても、ご希望の方にはカラーリング等の対応が出来る美容師の手配をしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	専属の調理師を2名配置し、栄養士の管理の下、栄養バランスの良い食事を提供しています。 また、好き嫌いによるメニューの変更など臨機応変に対応し、出来る方にはお手伝いをして頂けるような支援をしています。	食材は全て配送されています。利用者の希望がある時は近くのスーパーで購入し、専属の職員が手作りしています。テーブル拭きや食後の皿洗いをする人もいます。法人の強みを生かしビュッフェスタイルによる寿司、パン、天ぷらなどの楽しみ食もあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1日を通して水分補給が出来る時間を作っています。 また、好きな時にお好きな物をお飲みできる様随時声かけし、1日のトータル水分量をチェックしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に口腔ケアを行っています。 また、週に1度、訪問歯科による往診日を設けています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	ご人身で排泄が出来る支援を基本としお身体の状態によっては、現状の排泄習慣を維持できる支援を実施しております。 また、必要な方に対しては排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努めています。	「気づきの所見」というものを活用し、排泄チェック表は、全体と個人用の2つを作成しています。チェック表で時間を調整しながらトイレ誘導を行っています。入居時おむつだった利用者がリハビリパンツに移行できた事例などがあり、数名の自立に繋がっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	なるべく腸の動きが活発になるような体操を心がけています。 便秘の際は訪問医や訪問看護師と密に連携を取り、アドバイスを頂きながら、原因究明し早期改善できる様努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	お一人お一人の入浴希望日を把握し職員の方から声掛けを行っております。 希望されない方は無理に入浴して頂く事はありません。	入浴回数は週3回を基本として、外出の状況を見ながら入浴時間を決めています。入浴拒否の場合は祭りやハワイアの雰囲気を出したり、家族に電話で説得してもらって入浴することもあります。家族からの柚子の差し入れて柚子湯や、しょうぶ湯も行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	お一人お一人の体力に応じ、休息を促しております。 空調にも配慮し布団シーツ、布団カバーも常に清潔を心懸けています。 個室の為、静かに落ち着いて眠れる事が出来ています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	お一人お一人の薬情報をファイルにして管理しています。 また、服薬時には誤薬防止の為、職員間での読み合わせを行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	お一人お一人の生活歴から役割を分析しその方に適した支援を行っています。 趣味に関しても出来限りの支援をさせて頂いています。 また、外出レクに力を入れており、外に出る機会を多くとっています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候にもよりますが、天気の日にはほぼ外出レクを行っています。当事業所の外周を散歩として毎日行っています。 また、季節に合った外出レクを提供させて頂いています。	事業所の周りには太尾堤緑道、港北水再生センター、鶴見川の土手があります。足を延ばせば大倉山梅園もあり、いつでも散歩ができる場所です。また、小学校や中学校、高等学校も目の前にあるので文化祭などに行くこともあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物に出られる際にはおこずかいを持って頂き、個別に買い物を楽しんで頂いています。また、毎月受け入れている障害者支援の方々のお菓子の売買の際にはお一人お一人お金を持ち売買しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話に関してはご家族様のご理解の下いつでも連絡出来る状態です。 年賀状や、お手紙のやり取りを行う為に日々のレクに文字書きのレクを取り入れています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自然な環境を維持し、居心地の良い空間作りを心懸けています。 また、ご入居者様が以前作成した物や当事業所で作成した物を展示し、季節に合った飾り付けをレクの一環として作成して頂いています。	共用空間に多くは飾らず、職員が作った絵画や切り絵、手芸、花などで大人の雰囲気を出しています。利用者の作品はいつでも利用者の目に触れるようにテレビの周りに置かれています。各フロアのリビングはギャラリーとして、利用者が外出した際の写真なども飾られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	日の当たる場所に共有ソファを置き、日光浴をしながら外の菜園や花壇を眺めたり、読書や昼寝をされたりと思い思いに過ごして頂ける様工夫をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご入居の際に使い慣れた家具をお持ち頂く事をお勧めしています。 ご入居されてからご本人様が早く生活に慣れて頂く為にご家族様と密に連絡を取り支援を行っています。	使い慣れたタンスや椅子、照明スタンドを置き、音楽プレーヤーを使う利用者もいます。家族が作ったガラス細工を飾っています。各部屋には、職員が作ったプリザーブドフラワーの表札があり、華やかに演出されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	お一人お一人の認知症の状態やADLに応じて家具や座席の変更など安全に配慮し、ご本人様の動線を確保し出来るだけ自立した生活を行えるよう支援しています。		

事業所名	愛の家グループホーム横浜大倉山
ユニット名	2F うめ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	①その人らしい快適で穏やかなシルバーライフを常にサポートします ②心を込めた親切なサービスに努めその心を磨き続けます。 ③さまざまな機会を通じて地域の人々とのふれあいを大切にします。この3つの理念を継続的な運営に努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	運営推進会議を通じて自治会長や民生委員の方々と交流を深めています。また、事業所で行うイベントに地域の方々をお招きし認知症への理解を深めて頂く取り組みを行っております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方で認知症介護に困っている方に対して相談体制を整えています。また、認知症高齢者支援の中でも、認知症相談受付と徘徊協力機関として、協力体制を整えています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回の運営推進会議を開設時より欠かさず行い、ご家族様や地域の方々の意見を反映しサービスの向上に努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	横浜市港北区で行われる研修や会議に参加し担当の方々と情報交換を行っております。また、職員もケアプラザで行われる会議に参加しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	マニュアルを掲示し拘束や施錠を防止しています。また、定期的に職員が研修を行い意識を高めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的に研修を行い防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	今後、社内や外部研修等の機会を通じて学び、対象となる入居者様に対して活用できる様に支援します。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には概ね2時間～3時間の時間を掛け読み合わせを行い、ご理解を頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議時にご家族様よりご意見を頂き、日常的にも意見箱を設置しご意見を反映させています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月必ず全体会議を開き意見を発言できる場を設けています。また、個人面談等を通じて、職員一人一人の意見や考えを伺い反映できる環境を整えています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	例年、従業員に対して満足度アンケートを実施し、職場環境の改善に努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	地域で行われる研修や会議に参加しフィードバックする事と、年間研修計画を作成し毎月職員自ら学び研修を実施しています。また、経験年数に応じた研修を開催する事で職員のモチベーションを高め、ケアの質向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	ケアプラザで行われる会議等に参加し情報交換や交流を深めています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前のアセスメントでは、本人の要望とご家族様のご要望を聞きだし、理解し、当事業所での生活がイメージできるような助言と相談を実施する事で良好な関係作りに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス前にはご家族様とも十分に話し合いを持ち安心してサービスが受けられるよう理解を深め、信頼を得られています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービス開始段階で必要としている支援をニーズから見極め、助言する事を実施しています。支援して行く中でも他のサービス利用の必要性なども発見し、助言しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	生活をする上で必要な家事や、楽しみなどをご入居者様と職員で共有し、良い雰囲気の上で関係を構築しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の意向を傾聴し、必要であれば随時、担当者会議を開催し、サービスの計画を立てている。本人を支えていく上で様々なヒントや助言を頂き反映できています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	年賀状や手紙などを継続して描いていただく事や、個別支援によりご自宅近くへのドライブで近所の方とお会いできる機会を増やしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご入居者様個々の性格を把握し、場合によっては職員が間に入る事で、職員も含めて共に生活する仲間として、役割を持てるような雰囲気作りをしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	当事業所でのサービスを終了された後もお電話での連絡やご相談に対して随時ご対応させて頂いています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン更新時には必ずご本人様の意思や意向を尊重しプランに反映させ本人本位のケアプランとなっています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族を交えてのアセスメントを実施し、生活歴や生活環境を把握しております。趣味や馴染んだ習慣なども継続して実施して頂いております。また、大切にしていた行事なども個別支援として対応方法を検討させて頂いております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	今までのその方の個々の過ごし方を尊重しています。心身の状態も常に観察し対応し、日々の申し送りの際に心身の状態を引き継ぎしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月のユニット会議時に職員の考えている事や現在の課題を明確にし話し合いを行っています。 また、ご家族様からのアドバイスも踏まえて職員全員で共有し達成可能な無理の無いケアプランを作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランを介護記録と一緒にファイルし、プランを常に意識しながら記録する事ができています。 情報共有も適宜適切に行えプランの見直しに活かされています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご入居者様やご家族様の新しいニーズに対し、臨機応変なサービスを実施しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域のボランティアや障害者支援によるお菓子の売買を行っています。 地域の方々と触れ合う事で入居者様の活気がより一層強くなり金銭をお使う事で社会性も強くなっています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご入居時には、今までのかかりつけ医、当事業所のかかりつけ医を選択する事が出来、どちらの場合においても随時連携し、適切な医療が受けれる体制となっています。 また、ご家族様が不在時には職員による通院対応も行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に1度の訪問看護師による往診により情報を共有し連携強化を図っています。また、その都度、訪問医と連携しながら適宜適切な助言を頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は必ずソーシャルワーカー等と密に連携を図り、適切な情報共有が出来るような体制を整えています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に「重度化した場合の対応にかかる指針」の説明を行い同意を得ています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	年2回の消防防災訓練を実施し、消防所長の指導の下、応急処置訓練や普通救命の訓練を行っています。また、各ユニットに緊急時の対応マニュアルを掲示しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の消防防災訓練を実施し、(内1回は夜間想定訓練)消防所長の指導の下、応急処置訓練や普通救命の訓練を行っています。また、各ユニットに緊急時の対応マニュアルを掲示しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご入居者様お一人お一人の尊厳を大切にし意思を尊重した声掛けを心懸けています。 また、接遇や対人コミュニケーションの研修を行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご入居者様お一人お一人の性格や人生背景に照らし合わせ思いや希望を叶えられるような声掛けや自己決定できるようなアプローチを心懸けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	可能な限り希望に沿ってその日の過ごし方を支援し、その方のペースを大切に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	お一人お一人の生活習慣に合わせた身だしなみをして頂けるよう支援し、理美容に関しても、ご希望の方にはカラーリング等の対応が出来る美容師の手配をしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	専属の調理師を2名配置し、栄養士の管理の下、栄養バランスの良い食事を提供しています。 また、好き嫌いによるメニューの変更など臨機応変に対応し、出来る方にはお手伝いをして頂けるような支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1日を通して水分補給が出来る時間を作っています。 また、好きな時にお好きな物をお飲みできる様随時声かけし、1日のトータル水分量をチェックしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に口腔ケアを行っています。 また、週に1度、訪問歯科による往診日を設けています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	ご人身で排泄が出来る支援を基本としお身体の状態によっては、現状の排泄習慣を維持できる支援を実施しております。 また、必要な方に対しては排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	なるべく腸の動きが活発になるような体操を心がけています。 便秘の際は訪問医や訪問看護師と密に連携を取り、アドバイスを頂きながら、原因究明し早期改善できる様努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	お一人お一人の入浴希望日を把握し職員の方から声掛けを行っております。 希望されない方は無理に入浴して頂く事はありません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	お一人お一人の体力に応じ、休息を促しております。 空調にも配慮し布団シーツ、布団カバーも常に清潔を心懸けています。 個室の為、静かに落ち着いて眠れる事が出来ています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	お一人お一人の薬情報をファイルにして管理しています。 また、服薬時には誤薬防止の為、職員間での読み合わせを行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	お一人お一人の生活歴から役割を分析しその方に適した支援を行っています。 趣味に関しても出来限りの支援をさせて頂いています。 また、外出レクに力を入れており、外に出る機会を多くとっています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候にもよりますが、天気の日にはほぼ外出レクを行っています。当事業所の外周を散歩として毎日行っています。 また、季節に合った外出レクを提供させて頂いています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物に出られる際はおこずかいを持って頂き、個別に買い物を楽しんで頂いています。また、毎月受け入れている障害者支援の方々のお菓子の売買の際にはお一人お一人お金を持ち売買しています。		



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話に関してはご家族様のご理解の下いつでも連絡出来る状態です。 年賀状や、お手紙のやり取りを行う為に日々のレクに文字書きのレクを取り入れています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自然な環境を維持し、居心地の良い空間作りを心懸けています。 また、ご入居様が以前作成した物や当事業所で作成した物を展示し、季節に合った飾り付けをレクの一環として作成して頂いています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	日の当たる場所に共有ソファを置き、日光浴をしながら外の菜園や花壇を眺めたり、読書や昼寝をされたりと思い思いに過ごして頂ける様工夫をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご入居の際に使い慣れた家具をお持ち頂く事をお勧めしています。 ご入居されてからご本人様が早く生活に慣れて頂く為にご家族様と密に連絡を取り支援を行っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	お一人お一人の認知症の状態やADLに応じて家具や座席の変更など安全に配慮し、ご本人様の動線を確認し出来るだけ自立した生活を行えるよう支援しています。		